

日本税法学会と清永敬次先生

理事長 田中 治

日本税法学会前理事長の清永敬次先生（京都大学名誉教授）は、平成27年12月16日に84歳でお亡くなりになりました。ご逝去の報を聞き、ただただ悲しく、力が抜けるような思いでした。

清永敬次先生は、昭和26年の日本税法学会の創立から間もない、昭和32年4月に入会されました。後掲の資料が示すように、清永先生が、最初の学会報告をされたのは、昭和34年10月の第17回大会においてです。このとき先生は、「商事貸借対照表基準性の原則」というテーマで報告され、それ以降、おびただしい数の学会報告等の研究活動を積み重ねられるとともに、当学会の指導的な役割を果たされました。なお、後掲資料が示すように、この頃の大会は、参加者数は20から30名程度ですが、戦後の税法学を作り上げ発展させた諸先生方が力を合わせて旺盛に研究に取り組むという、生成期のはつらつとした雰囲気を感じさせてくれます。

清永先生は、日本税法学会の創立メンバーの一人であり、当学会および我が国の税法学の発展に尽力されてきた中川一郎先生が平成7年1月に急逝された後の大変困難な状況の中で、日本税法学会理事長に就任され、爾来12年の間、学会理事長として、学会運営とその発展に大きな貢献をされました。卓越した学問的能力を備えるとともに、公平無私で包容力に富んだ先生がいらしたからこそ、あの困難な時期を乗り越えることができたものと、深い敬意と感謝の念でいっぱいです。

清永先生は、日本税法学会における研究活動等に加えて、多数の著書、論文等を通して、我が国の税法学の発展に多大の貢献をしてこられました。その的確で深い学識の上に生み出された先生の著作に深い感銘と刺激を受けた者は数知れません。先生の学問的成果をどう受け継ぎ、発展させるかは、今後の我々に課された課題だといえるでしょう。

実は、これまで、清永先生にもご相談、お願いをし、日本税法学会の歴史をまとめ、今後の課題を整理する準備をしてきましたが、その歴史の重要な部分を担ってこられた先生が余りにも早く他界されてしまいました。本当に悔やまれてなりません。

あと5年で、日本税法学会は創立70周年を迎えます。先人が育んでこられた税法学のよりいっそうの発展をめざし、その熱い思いを我が思いとして、今後の研鑽に努めたいと願うものです。

そのためにも、改めて、日本税法学会の歴史（の一端）を思い起こし、これを共有することに努めたいと思います。以下においては、さしあたり、これまでの日本税法学会の各大会における報告テーマ、報告者等を中心に、学会の研究史の一端を掲げます。すなわち、今日では入手が困難な『日本税法学会創立30周年記念祝賀税法学論文集』（昭和56年）に収録された、中川一郎先生の手になる「30周年を迎えて」をほぼそのまま再録するとともに、それ以降の大会（第59回大会以降）については、これと一体性、通観性を保つ形でまとめています。第59回大会以降の整理は、谷口勢津夫会員のお手を煩わせました。厚くお礼申し上げます。

日本税法学会の歴史の受け止め方は会員によって違うかもしれませんが、とはいえ、今後とも、会員の研究意欲と自発性を基礎に、多様な考え方を尊重しながら、よりよい税制や税務行政を目指して学問上の歩みを続けることこそが、残された我々に託されていると考えます。